

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とグループの理念に沿ってケアが出来るように努めている。朝礼、終礼の中で気付いたこと等の確認や定期的な会議、研修などを行い実践につなげている。	事業所の理念に沿って各グループ毎に1年の目標を立て、毎日のミーティングで確認することにより、スタッフ間の共有しています。	常に立ち戻ることができる目標を設定するなど、具体的取り組みが行われることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員の出勤、退勤時や利用者と散歩中に近隣者と日常的な挨拶や会話を行っている。地域行事や学校訪問などに参加して事業所を知ってもらい交流している。	敷地内近くに保育園ができ、散歩中の保育園児の声が聞こえ、窓越しのふれあいが見られます。	感染が心配される時期ではありませんが、社会的距離を配慮して事業所からの交流をも検討されてはいかかでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所への見学や相談に来られた方に話をしたり、地域行事参加の前に関係者の方々に説明し理解をして頂いている。認知症サポーター養成事業や市の地域福祉ネットワーク事業に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の開催。入退居の状況、苑内外での活動状況や苦情、事故状況などの報告、意見を頂いている。地域とのつながりのパイプ役となって頂いている。	利用者家族の中には代表の他に、知見を有する家族の参加もあり、専門的な意見も見受けられます。	次のステップに向けた目標を設定し実現するために、会議の意見などをサービス向上に具体的に活かすことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアで難しい方や制度的に分らないこと等は市の担当者に相談している。また介護安心相談員の受け入れや地域医療対策協議会や町作り協議会参加など市や町との関係づくりに努めている。	事業所の実情や考え方を伝えるとともに、ファックスなどで頻回に相談しながら積極的に連携が図られています。	継続して連携が図られることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員のケアに対して問題がないかを朝礼、終礼又は会議で確認している。常に職員間で話し合いを行い、他のユニットの協力を得ながら付き添い、見守りをしている。施設内でも計画的に研修を実施している。	利用者の状況の変化により、家族へ説明をし確認してセンサーマットを使用していたが現在は無いとのことです。利用者一人ひとりの、その日の気分や状態を把握しスタッフ間で情報の共有をされて安全で自由な暮らし支援されています。	安全のための使用が拘束となりえることもあります。どういう使い方をすれば拘束となるかなど、使用時の意識が再確認が必要となるでしょう。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市主催の研修会に積極的に参加して施設内で研修会を行い、防止に努めている。また、朝礼、終礼、会議などで職員にケアの在り方や接し方について確認や話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている入居者様はいない。市の研修に参加し、定期的に施設内で研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談や見学時から十分に説明を行い、契約や解約時にも再度説明している。不安や疑問時はその都度説明している。又契約、解約、改定時は書面で説明を行い、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、家族会や面会、ケアプラン作成時に要望等の有無を聞いている。遠方の家族には手紙や電話で近況報告し要望等を聞いている。	感染拡大の時期にあるので、アンケートなどによる聴取方法を検討がなされています。	家族から得られた意見などに対して、経過や結果について報告することを、速やかに検討し実施に至ることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や全体会議、朝礼、終礼の中で意見や提案を聞き全職員で内容を検討しながら現場の向上に努めている。	会議などで出た意見に対して、事業所全体で検討し改善するよう努められています。	職員が組織的に対して自由に発言ができるよう、上司はそれを受け止めることができるよう、それぞれ力量を身につけていかれることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から各職員に声掛け、努力や実績勤務状況を把握し、お互いにやりがい、向上心を持てるように環境作りに努めている。また、残業をなくすために働き方改革、業務改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、苑内研修を計画的に実施。また、職員にあった研修内容を振り分け、資料作成や講師を実施している。経験等を考慮し、働きながら指導、アドバイスをを行っている。苑外の研修を受ける機会も作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、定期的な研修などでさまざまな情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の聞き取り、面会の段階で本人の話や不安などがあれば聴くようにしている。本人の訴えが難しい時は家族から聞くようにしている。また、家族の不安の解消と信頼関係作りを念頭に置き対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が話しやすい環境を作り、訴えや要望を傾聴して可能な限り取り入れる様に努めている。また、家族の立場、思いを受け入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の現状の把握に努め、今、必要としている支援やサービス内容等を家族と相談した上で対応する様に情報共有に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、後片付け、軽作業を一緒に行いながら、共有する時間を設けている。毎日、ミーティングを行い、職員間で情報を共有し、関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会しやすい環境作りに努めている。定期的に家族に手紙や写真で近況を伝えている。可能な方は受診も一緒に行っていたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ支援で馴染みのある人や場所に連れて行ける様に努めている。また、地域イベントへ可能な限り参加し、地域への働きかけや他利用者との交流の支援に努めている。	感染予防対策もあり、直接会うなどはできていないとのことです。代わりに記憶をたどり楽しめるよう、ドライブや屋外散歩をするなどの努力が払われています。	いろいろと苦慮されているようです。馴染みの関係が継続されていく新たな支援のあり方を検討されることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場において相性もある為、利用者一人一人の個性や関係性を考慮しながら声掛けや支援を行っている。利用者が快適に生活ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても会う機会等があれば、その後の状況を聞いたり、今までの思い出話をしたりと関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や人生観、趣味等を把握した上で本人の意向の把握に努めている。また家族からの情報を得ながら本人が望まれる環境作りに努めている。	利用者と家族の交流もままならない環境ながら、できる限りの交流を図りつつ、両者の意向や思いを把握されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の様子を本人、家族、担当ケアマネージャー、他事業所から情報収集し、可能な限りこれまでと変わらず生活できる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできることの把握と向上出来るような環境作りをする為にケアミーティング会議などで職員間で情報の共有を図り、検討し対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ち担当制にしており毎月評価してもらい、日々のケアミーティングで取り上げ課題を話し合い、状況、状態にあったケアに反映している。	手紙や電話で家族の意向を把握し、計画担当者が介護計画を作成し、担当者・家族などの関係者で担当者会議が行われています。	社会的距離を配慮しつつ、より個別的な介護計画の作成ができることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、その都度取り上げ、話し合い、実践し結果を共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からのニーズや問題点に対して、その都度職員全員で協議しニーズに応えられるように対応策を検討しながら取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃の外出や地域の小学校の行事に参加することで地域の方とのふれあいや子ども達との交流の支援をし、日々の暮らしに変化を取り入れながら楽しみが持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の継続など本人、家族の意向に沿って対応している。受診時はなるべく家族に同行をお願いしているが出来ない時は報告をしている。病院と日頃から連携を密にし急変対応や看取りの協力を得ている。	感染拡大時期にあり、主治医の受診はスタッフにより全て対応されています。利用者の半分は訪問診療を受けられています。結果は家族へそのつど報告されています。	今後の対策として、受診のあり方は他の方法も検討されていく必要があるのではないかと思います。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回健康チェックを行い、体調の変化に気づいたら速やかに報告し受診のタイミングを判断している。夜間の急変時対応も待機看護員に報告ができる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提供し日頃の生活の様子を伝達している。又、定期的に面会に行き本人の状態を把握すると共に主治医やスタッフとの関係構築を図り、退院時スムーズに移行できるよう退院前カンファレンスをお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについて、当施設で出来る事を説明している。重度化や時期に応じ主治医、本人、家族と情報の共有し再度説明を行い、方向性を決めている。家族の気持ちもその時々で変化していく為、話を傾聴し思いに寄り添い支援に取り組んでいる。	重度化に伴う意思確認書を作成されています。状況に応じて随時意思確認をしながら取り組まれているとのことですが、家族への説明や記録の経過が確認できませんでした。	関係者との話し合いや家族への説明、介護計画の変更など、経過がわかる記録の充実を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月勉強会を実施し実践的な訓練を行い、不安が残らないよう繰り返し行っている。季節毎に感染症等を予測し勉強会に取り入れれたりヒヤリハット報告書に基づいた検証を行い事故防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を立て、各ユニット事にファイルを設置している。年に2回勉強会を行い、火災及び地震時の対応に努めている。運営促進委員の方の協力を得て消防団視察や地域の防災訓練に参加した。	避難訓練時には、避難経路や避難場所を再確認しながら定期的の実施されています。	感染予防対策と併せて、起こり得る災害の臨機応変な対応が出来るよう、消防・防災関係者との話し合いや情報交換もさらに必要かと思われます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の自尊心を尊重した言葉掛けや行動しやすいう配慮に心がけて職員間で注意し合える環境作りに努めている。職員自身も日頃から人間性を高め、努力することを忘れないようにしている。	スタッフが利用者に対して、なれなれしい言葉遣いや態度にならないように、日常的に気配りがされています。	日常的な確認と、改善に向けた取り組みを継続的になされることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から入居者の思いを表出しやすいように声掛けや傾聴をしている。表出が難しい方にはヒントを出して表情やしぐさ等で判断、対応している。自己選択、決定ができる機会を作り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活歴から仕事や得意だった事を把握し、日々の生活の中で活かせるように努めている。その日その時の本人のペースで生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら洋服を選んでもらい、季節にそぐわない時は傷つけないように違う洋服を勧めている。また、洋服が足りなかったり、少ない時は家族に連絡、相談したり一緒に買物に行きおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切りなど一緒に行っている。ミキサー食の方でも少しでも形がある物を食べられるように支援。また行事毎にテーブルセッティングを変えたり、好きな物を食べに行ったり楽しんでもらえる工夫をしている。	社会的距離の確保のため、食事での会話も少なく、利用者が自ら楽しまれることがなかなかできず、苦慮されています。	散歩の際に季節の草花を摘んで食卓に飾り季節感を味わうなど、食事やお茶の時間を楽しむ工夫をされてはいかがでしょう。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増減も含めそれぞれに応じた量や形態を考慮し提供。糖尿病や透析を受けている等の特別食が必要な方は病院に相談し指示を仰ぐようにしている。食が進まない方には好みの飲食物で代用し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれのコップ、歯ブラシを用意し能力に応じた口腔ケアを実施。また、歯ブラシでは口腔ケアが難しい方にはスポンジブラシやガーゼを用いている。また、訪問歯科に治療、相談、指導をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の能力に応じ排泄チェック表を基に個々のパターンを知り、トイレで排泄ができるように誘導や支援を行っている。	昼間はほとんどの利用者が布パンツにパットで過ごされています。昼夜ともに出来る限りのトイレやポータブルトイレへの誘導支援が行われています。	利用者の精神的な自立となるよう、可能な限り支援が継続されることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤や内服薬に頼らず牛乳やヨーグルト、からいもなどをおやつで提供し、運動や腹部マッサージを促し自然排便ができるように取り組んでいる。1日の十分な水分補給も支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴で一人ずつ入浴してもらい、楽しめるように支援している。入浴拒否が強い方には職員を替えたり、次の日に変更したりと考慮している。また、足浴も実施し喜んでいいる。	週2～3回の入浴支援を実施されています。また、利用者からの希望があれば、つど対応されています。	利用者の皮膚状態の観察には入浴は最適な機会です。夏と冬の回数を変えるなどの検討されてはいかがでしょうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせてレクリエーションなどにも参加を促している。本人の体調や希望を観察し無理のないよう休息を支援している。また、寒い時は湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が準備し、服薬時は二人で確認をしている。入居者のファイルに服薬説明書を綴じてありいつでも内容を確認できるようにしている。内服変更の時は情報の共有と症状の変化に観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今できることを最大限に尊重し、洗濯畳みや食器洗い、新聞読み、好みのおやつを提供などを行い、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や買い物、懐かしい場所に出出している。家族と連携し一時帰宅や馴染みの美容室での散髪やかかりつけ医への受診などの支援を行っている。	その日の天候の状況や健康状態に応じて支援されています。感染拡大もあり、家族や地域の人との連携がなかなかできずに苦慮されています。	新たな外出の支援のあり方を、検討していく機会でもあると思われます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人の経済活動の意味を理解している。外出では、本人の能力に応じて、自身でできる事はしてもらい、買い物でのお金の支払いもできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をしたい時にできるように対応。手紙が届いた時は本人が読み、読めない時は職員と一緒に読んでいる。返事はできる限り本人が書くよう支援。送り物が届いた時は電話をかけ本人からお礼を言ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活リズムに合わせて休む時は照明をおとし、活動時は明るく、食事時は落ち着いた雰囲気になるよう工夫している。空調も一時的に外気を取り入れ温度や湿度を感じてもらえるようしている。入居者に合わせ音楽を流し落ち着いて過ごせるよう工夫している。	敷地周辺は緑が多く、窓も広く、のどかな田園風景を楽しめる空間となっています。定期的な換気も実施されています。	自然環境に恵まれた立地を活かし、居心地がよく安全な共有空間の確保のためには、頻回の換気が不可欠です。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の状態、状況を観察しながら、席の配置の移動、時には事務所や他ユニットを利用して気分転換を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持参した寝具や飾り物、使い慣れた物を積極的に使用し、温かみのある居室作りを目指している。暑い時は涼しげに寒い時は暖かく感じてもらえるように工夫、支援をしている。	居室の訪問はできませんでしたが、外見からは利用者の作品や、家族や好きな動物の写真が飾られており、安心して過ごせるような雰囲気が感じられました。	個室であることのメリットを活かし、居室を中心とした生活時間サイクルの見直しを含めての検討することで、居心地の良い居室づくりの絶好の機会となるでしょう。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活に意欲を持てるように「トイレ」「浴室」の分かり易い表示や大きいカレンダーや日めくりカレンダーで日時の把握しやすいように工夫している。整容面では手の届く位置に道具を配置し、自立を促している。		